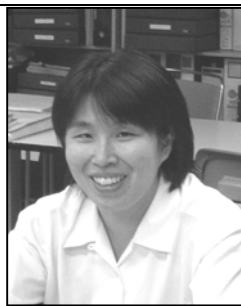


技術者としての目標

所属：大日本コンサルタント株式会社

氏名：吉澤 直子

部門：建設



北陸支部

略歴

1974年生れ

富山県出身

趣味：プチ旅行

抱負：頼られる技術者になる

私が建設コンサルタントに入社し、橋梁の計画・設計に従事してから12年、技術士登録をしてから2年が経つ。当然、技術士を取得したからといって技術力が飛躍的に向上した訳ではなく、今でも新たな知識や技能の習得に四苦八苦している。

そもそも、私が建設コンサルタントに入社しようと思ったきっかけは、大学在学中に発生した阪神・淡路大震災の被害をTVで目の当たりにしたことだった。特に阪神高速道路神戸線の橋脚の基部にせん断破壊が生じて倒壊している様子は衝撃的だった。「普段、何気なく使用している（安全だと思っている）橋梁が地震によって通行できなくなるだけならまだしも凶器にまでなるなんて！大地震に強い安全な橋梁を設計して、このような被害を2度と起こさないようにしたい。」との強い思いからこの道に進んだ。

しかしながら、このような思いとは裏腹に私が入社した当時は女性の技術者というのはまだ珍しかったらしく、社外的にいろいろな場面で「女性」というだけで見下された態度をとられたと感じることが度々あった。悔しい思いでいっぱいであったが、その時は技術力も低く、発言することも思いどおりにいかなかった。

今は、建設の世界への女性の進出が一般的となり、私の先輩や同年代の女性技術者の方が多く活躍するようになってそのような思いをすることはなくなった。さらに技術士を取得してからは技術力のお墨付きをもらったようで、自分の発言に自信が持てるようになった。様々な職種の方と対等に話せるようになったことで、既存分野については理解が深まり、新規分野については知識の習得が可能となり、自分の実施できる業務の幅が広がったと感じている。

現在の私の主な仕事は、新設橋梁の計画・設計や既設橋梁の補修・補強設計等である。新設橋梁については、自分が設計した通りの橋梁が形となるため、楽しく、やりがいがある。一方、既設橋梁の補強設計は、施工的な制約が厳しい橋梁や一般的な補強方法では耐力が確保できない橋梁など、今まで私が経験してきた技術では対応できないものが多く、いろいろな知識を駆使して設計する必要があり、こちらもまたやりがいがある。特に、公共事業費縮減の昨今においては、一橋でも多くの橋梁の耐震補強を行うためにどのようにすれば低コストで耐力を確保できるかを考えなければならず、自分の考えた案が採用された時は本当にうれしい。

最後となったが、私の技術者としての目標は大学時代からの「大地震時に安全で緊急輸送路となるような頼られる橋梁を設計すること」であるが、その前段階として「頼られる技術者」とならなければならない。幸運なことに、会社の諸先輩方には素晴らしい知識と技術・発想力や危機回避能力などを持ち合わせた方がたくさんおられるので、一緒に仕事をするによりそれらを吸収し、自分の知識に幅と重みを持たせていきたいと考えている。そして、女性ならではの発想と気配りを最大限に活用し、必要とされる時に人々へ確かな技術力を提供したいと思う。